

講義名	中小商業論			授業形態	
担当教員	向山 雅夫	開講期・曜日・時限	後期 木曜日 3時限		
		単位数	2	履修開始年次	3年生

主題と概要

「中小商業が流通において果たす役割」について理解することが本講義のテーマである。

人々の目は華やかな大規模小売業に向きがちであるが、実は中小小売商業は独自の世界を作っており、その存在は極めて重要である。また中小小売商業から大規模小売商業への成長の可能性もある。商業の世界は奥深いことに気づいてもらう。

到達目標

以下の点について能力を高めること。

1. 流通の仕組みについて理解する
2. 中小商業の存在意義を知る
3. データが意味するものを読み取る
4. 現実から情報を読み取る力を養う

提出課題

講義内容を理解しやすくするために、講義開始直後に、各自で商店街見学に出向いてもらう

副読本を1冊指購入して読破し（江上明、『家電の神様』、講談社文庫、2016、¥740（税別））、用意した設問に回答する形式のレポート（2000字以上）を課す（各自書店にて副読本を購入しなればならない）

副読本を理解するためのレポート（2000字以上）を課す

合計6つの講義テーマごとに、理解度確認レポートを提出する（2000字以上）

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

理解度確認レポートについては、回答上の要点を後日配布する。

副読本に関するレポートについては、講義中のディスカッションを通じて回答する。

評価の基準

副読本レポート 副読本を理解するためのレポート 理解度確認レポート 講義中の発言の程度、の各得点をもとに評価する。配点については、初回講義で告知する。また、受講者との双方向のやり取りを取り入れた講義を実施するので、それに貢献した受講者には高い評価が与えられる。詳しい仕組みは、講義初回に詳細に説明する。

履修にあたっての注意・助言他

本講義は他の講義とは異なった形式で実施されるので、必ず以下の注意事項を詳細に読んでから、履修すること！！

履修可能人数を50名に限定する

受講者には、自主的に学外の商店街を見学に行ってもらう

講義形式としては、セミ・スタイルを採用するが、この場合の意味は、「適当に出席していれば単位が取れる」といういい加減なセミスタイルを意味していないことに留意されたい。一方で、少人数で本当に興味で学びたい、しかも他の講義にはない方法で」と思う学生には、最高の講義になるだろう。

教科書

.使用しない。

参考図書

その他

参考文献
 ・渡辺幸男・小川正博・黒瀬直安・向山雅夫、『21世紀中小企業論（第3版）』、有斐閣アルマ、2013年
 ・加藤司・石原武政（編著）、『地域商業の競争構造』、中央経済社、2009年
 ・東伸一・三村優美子他編、『流通と商業データブック』、有斐閣、2022年
 ・副読本：江上明、『家電の神様』、講談社文庫、¥740

授業計画

回数	授業 計
第1回	9月22日 講義の進め方
第2回	9月28日 中小商業の基礎理論（1）
第3回	10月6日 理解度確認レポート
第4回	10月13日 中小商業の基礎理論（2）
第5回	10月20日 理解度確認レポート
第6回	10月27日 地域コミュニティと中小商業について
第7回	11月3日 理解度確認レポート
第8回	11月10日 副読本を理解するためのレポート：日本の家電流通システムの過去と現在
第9回	11月17日 副読本を讀むためのディスカッション
第10回	11月24日 まちづくりと中小商業について
第11回	12月1日 理解度確認レポート
第12回	12月8日 高齢者と中小商業（買物弱者問題）について
第13回	12月15日 理解度確認レポート
第14回	12月22日 個店の魅力・専門性について
第15回	1月5日 理解度確認レポート

授業形態（アクティブ・ラーニング）

<input type="radio"/> A：PBL（課題解決型学習）	<input type="checkbox"/> イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
<input type="radio"/> U：ディスカッション、ディベート	<input type="checkbox"/> エ：グループワーク
<input type="checkbox"/> オ：プレゼンテーション	<input type="checkbox"/> カ：実習、フィールドワーク
<input type="checkbox"/> キ：その他（A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習：本講義の内容に関連する参考文献を副読本として各自で自由に読破し、講義内容の理解を容易にする努力をしてほしい。毎週2時間を要する。

復習：数回実施するレポート課題に取り組むことで、講義内容をより深く理解してもらいたい。毎週1時間を要する。

レポートのための調査・情報収集は、講義時間外に作成することになるだろう。それに要する時間は、受講生自身のやる気に依存する。ハイレベルを目指すのであれば、かなりの時間を要することは疑いない。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

中小商業の構造を知るために商業統計などのデータを利用して、その数値的理解を構造理解に結び付けることを狙いとしている。これによって、流通の世界における中小商業の位置づけ、その変化、その意味が理解できる。また、講義で取り上げたいポイントは、現代日本が抱える課題でもある（たとえば高齢者問題やまちづくり）。これらの点を理解することはコース固有のIPそのものであり、学生が就職先を考慮する際の、選択肢の拡大にもつながることが大いに期待される。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

ディスカッションを通じて、毎週の講義はすべて完全双方向授業であり、垂れ流し型の講義は行わない。

実務経験の有無及び活用

備考

ただ出席して座っているだけでは単位取得は不可能である。狙いは、学びたい学生に真剣に講義に取り組んでもらうためである。よって、出席する学生には正しい「学びの姿勢」を強く求める。